



寄居の未来をデザイン！

学生が描く「まちの新ビジョン」

(TDU 東京電機大学 + 東京理科大学) × 寄居町



歩き、調べ、創る

プロジェクトは春からスタート。学生たちは寄居のまちなかを歩き、まちの「息づかい」を体感してきました。空き店舗の写真撮影、住民ヒアリング、交通量のカウントなど、地道な調査を積み重ね、スケッチブックを片手にアイデアを膨らませ、模型やパース図を作成。建築の専門知識を生かしつつ、町の「ストーリー」を重視したデザインが提案されました。四季折々の寄居を体感した学生たちは、「歩くたびに新しい発見があり、デザインの幅が広がった」と振り返ります。このプロセスは、単なる調査ではなく、学生と町民の絆を深める貴重な時間にもなりました。

「種まき」から実りへ

今回の提案は、あくまで「種まき」ではありますが、学生たちの情熱が寄居のまちづくりに一石を投じるものとなりました。今後、地元との対話を通じて実を結ぶ可能性は十分にあります。町としても、このような学生との関わりを深め、継続することで関係人口を増やし、まちづくりに生かしていくことを目指します。発表会で使用された魅力的な模型は、10月24日から31日まで寄居町役場1階ロビーで展示され、多くの方に「寄居の未来像」を見ていただくことができました。

また、各グループの提案等は、「寄居まちづくりNOTE」でご覧いただけます。成果を通じて寄居の未来を想像してみてください。学生との連携が寄居の未来を変えるきっかけとなるはずです。



できるよう「持ち出し飲酒」を促します。また、周辺の飲食店がワイナリー産のワインを提供する代わりに、飲食店の情報を発信し、訪問者を「事後酒」へ誘導するサイクルを構築します。これにより、夜の飲食店の利用を後押し、さらに、ワイン産業への関心を就農につなげ、将来的にはブドウ園の担い手増加を図ります。

設計の中心は二つの“土間”。生産者の“土間”がぶどう仕込み・醸造・瓶詰めの効率的な作業動線を確保し、利用者の“土間”がまちに開かれた交流スペースとして機能。町内の飲食店等を宿泊所に転用し、道路に接続することで、人々の視線と行動が交差する動的空间を生み出します。昼は学生・研究者の発酵実験や見学の学びの場、夜は住民・学生の成果の共有と交流の場へシフトし、木造主体で宿場町のスケールを現代的に再解釈しました。このワイナリーは、地域の生産と交流を象徴する新たな風景を生み、寄居町をお酒のネットワークでつなぐハブとなります。



寄居まちづくりNOTE

**東京電機大学 グループB
寄って酔って**
—お酒ネットワークで町がつながるワイナリー

寄居町の「お酒」を町の顔に押し出すため、醸造・提供・体验を核としたワイナリーを構想。チャレンジショップやLAB機能を複合し、地域連携で活性化を図る。

～プレゼンテーションから～
寄居町のワイナリー「寄って酔って」は、町内のぶどう園と連携してワインを製造・販売。缶ワインを YORIBA、Yotteco、SPARKなどの施設で販売し、山・川・公園で楽しむことが

交通の要衝、歴史ある寄居のポテンシャル

寄居町は、かつて街道筋の物流拠点として栄えた歴史ある町です。現在も、寄居駅に3路線が集まる交通の要衝として、さらなる中心市街地の活性化が町の発展の鍵を握っています。学生たちは、このポテンシャルを生かし、町の路地を歩き、地元商店街のお年寄りや若者へのインタビューを実施。空き家や緑地の活用、コミュニティのつながりをキーワードに、架空ながらも、現実味あふれる提案をまとめ上げました。

8チームがそれぞれの視点で、寄居の問題点を捉え、未来像を描き、成果として発表。こうした具体策は、寄居駅周辺を対象にした現地調査を基に練り上げられ、町の「隠れたストーリー」を引き立てるものとなりました。

これにより、寄居が単なる通過点ではなく、魅力あふれる滞在型のまちへと進化する可能性を鮮明に示してくれました。



「隠れた魅力」を未来へ

「まちを歩くことで、寄居の『隠れた魅力』が見えた。学生の視点で、町民の皆さんワクワクする未来をデザインしたい」と参加者の一人。発表会では、8つのグループが、それぞれのテーマでプレゼンテーションを行い、活発な質疑応答が繰り広げられました。提案は現実の制約を超えた創造的なものではあります、寄居の未来を語るきっかけになるはずです。学生たちは「このプロジェクトを通じて、寄居がもっと愛される町になることを願っています」と口をそろえました。ある学生は「初めての寄居で感じた温かみと、住民の方の率直な声がインスピレーションになりました。プロジェクトを通じて、町の息づかいを形にできたのがうれしかったです」と語ってくれました。

また、町関係者からの具体的な質問にも、明確なビジョンを持って回答し、官学連携の成果を実感させる一幕も見られました。

AUTUMN FOLIAGE ILLUMINATION

雀宮公園紅葉ライトアップ

～彩り～

イベント

もみじ市

(寄居町商工会・(株)まちづくり寄居共催)

11月28日(金) 限定

キッチンカーとテント出店

竹灯りづくりワークショップ

竹の灯籠が幻想的な空間を演出

11月29日(土)

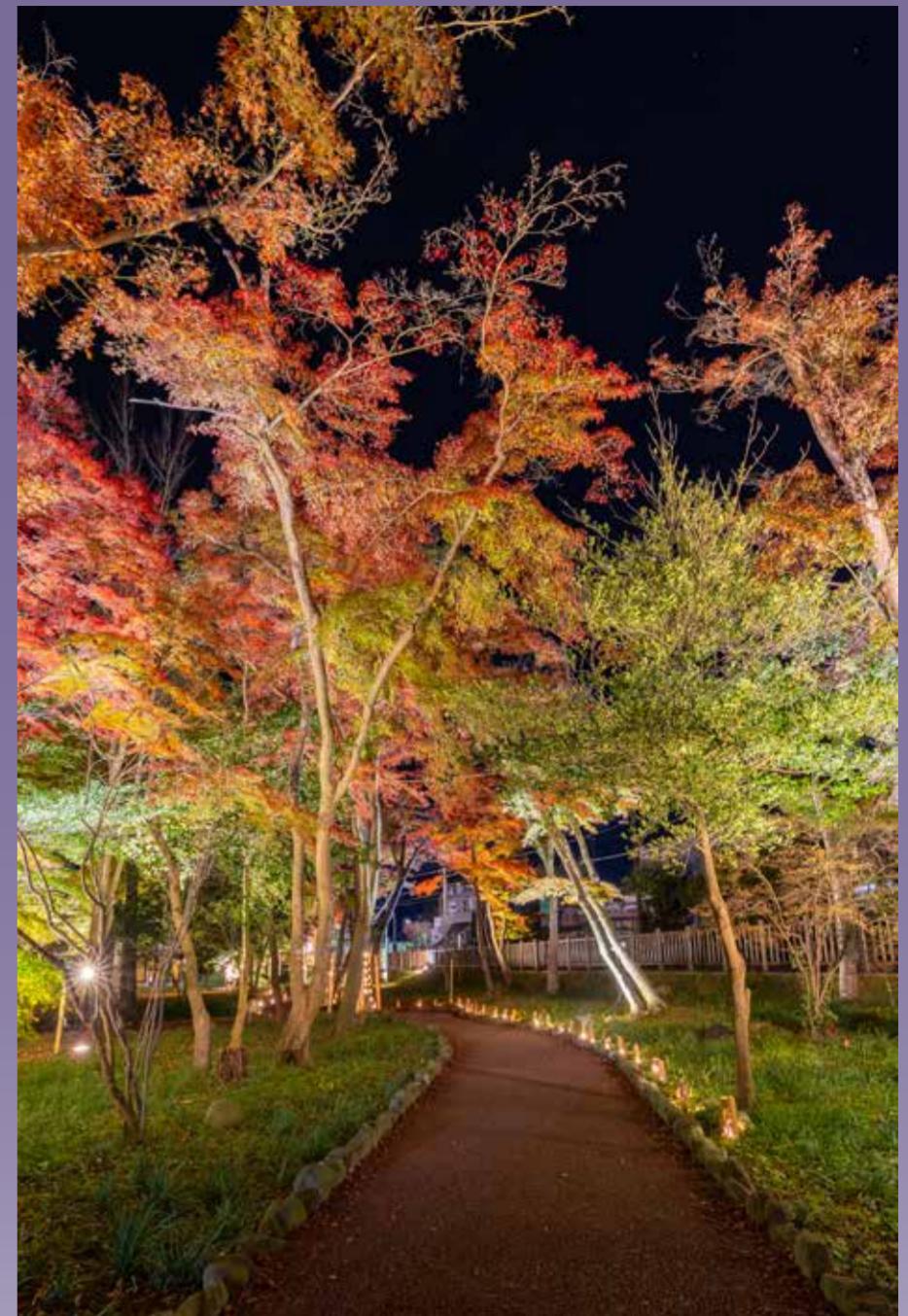
10:00~15:00

参加費 1,000円／人



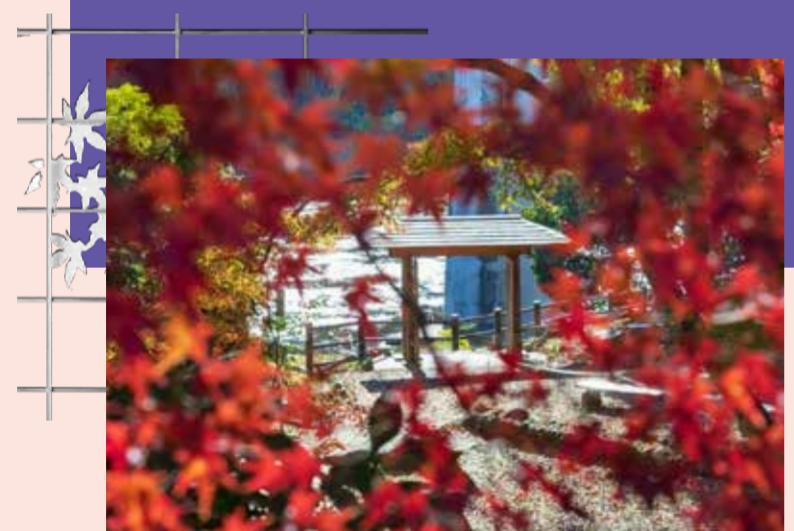
日時／11月28日(金)、29日(土)、
12月5日(金)、6日(土)
各日 16:00~20:00
(入場無料・雨天中止)

場所／雀宮公園（寄居町大字寄居643番地1）



PHOTOGRAPHY CONTEST

雀宮公園 フォトコンテスト2025



町では雀宮公園の魅力をPRするため、Instagramで
フォトコンテストを開催します。ぜひご応募ください。

期間／11月20日(木)～12月10日(水)

テーマ／錦秋

賞品／寄居町ふるさと納税記念品を進呈します。

金賞…1点 (寄附額3万円の記念品から選択)

銀賞…2点 (寄附額1万円の記念品から選択)

アクセス



電車の場合

電車／東武東上線、秩父鉄道、JR八高線「寄居駅」から徒歩約15分
東武東上線「玉淀駅」から徒歩約10分
自動車／関越自動車道 花園ICから約15分

雀宮公園紅葉ライトアップ2025 ～光が紡ぐ彩りの夜～

雀宮公園は紅葉の時季がベストシーズンとなります。秋風にそよぐ園内の木々が真っ赤に染まる頃、訪れる観光客は一年で最高潮を迎えます。落葉が地面を優しく覆い、足元を絨毯のように彩る光景は、心を奪われるほどの美しさです。園内は紅く染め上がり、夜には光の魔法が加わります。例年ライトアップ時には、数千人の来場者を迎え、静かな公園が一夜限りの舞台と化し、柔らかな光が枝葉を優しく照らし、影絵のような神秘的なシルエットを浮かび上がらせます。まさに、幸四郎の弁慶が繰り広げたような、力強くも優美な光景。それは、過去と現在が交差する「守破離」の一幕でもあります。古き風情を守りつつ、新しい感動を。光が紡ぐ彩りの世界をお楽しみください。